



時に激しく泣き続けると心配になります。

になります。



いろいろな種類の泣き方があ

ります。まずは、生理的な原因によるものです。一般には、おむつが濡れた時は、ぐずぐずした泣き方を、お腹がすいた時は、わりと低めの音程でぐずぐずした泣き方をします。

気をつけたいのが、体の具合の悪い時です。熱がないか、体の痛みはないか、皮膚に発しんがないか、便秘をしていないか、耳たれがないか、目やにが多くないか、おむつかぶれがないか、洋服を着せすぎていないか、部屋の温度は適正か、あせもができていないか、洋服がきつくて首周り、足首、手首がしめつけられていないか、体に虫などの異物がついていないかなどをチェックしましょう。まれに知らないうちに

時に激しく泣く…種類によって対応を

けがをして、打ち身や骨折があることも。激しく泣くのが周期的に起こるときは、腸重積のこともありますので、血便に注意を。

次いで、成長に伴う泣きがあります。自我が目覚めて自己主張をするようになったところの泣きで、後追い泣き、甘え泣き、いやいや泣き、人見知り泣きなどがあります。

最も問題なのが、原因不明な泣きで、特に夜泣きです。生後半年ぐらいから始まり、2歳ぐらいまで続きます。原因は不明で、決定的な方法はありません。一般的

に昼間の外遊びなどで体を動かす、寝る時間を一定にする、寝室は暗く静かな場所にするなどがあります。抱いたり、お腹のマッサージをした

り、時にはドライブにでかけるのも良いでしょう。

〈水戸市中丸町の平野こどもクリニック院長・平野

岳毅〉



子育て相談室